

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法③

予防接種編

大分大学医学部 地域医療支援・小児科分野 教授 是松 聖悟

小学校入学前年、中学1年時、高校3年時に MR（はしか、風疹）ワクチンを！

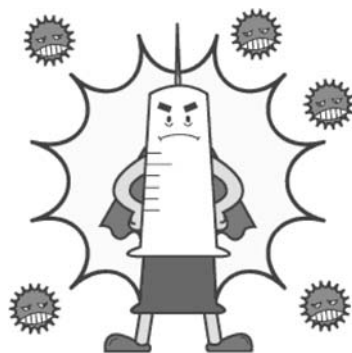


津久見市民の皆様、今月は緊急にお願いしたいというけい件があり、少し趣向が異なります。少しお詫びいたします。

国は、はしか（麻疹）、風疹を撲滅するため、それまで1歳時に1回だけ接種していた両ワクチンを昨年度から混合にして、1歳時だけでなく、小学校入学前に再度接種することを決めました。1回では効果が乏しかったからです。しかし、昨年度の就学前小児の接種率、大分県は全国最下

位（79・6%…1位の秋田県は96・1%）でした。津久見市は91・4%（該当年齢129人中118人が接種）と、素晴らしい接種率を示しましたが、今年度から、この制度が開始されたときに既に小学生、中学生だった子供への救済措置として、中学1年生、高校3年生への接種も始まりました。市民が安心して暮らせるためには、95%以上の接種率が欲しいところです。

はしかにかかると、1000人に1人程度は死亡します。たとえ、それを免れても、10万人に1人は、数年から十数年かけて、はしかウイルスが脳をむしばみ、徐々に意識がなくなつて、やがて寝たきりになってしまふのです。大分ではまだ流行していませんが、今年、脳炎を発症したのは全国で6人、うち死亡率は15%、命が助かってても20〜40%の人は重度脳障害を残しているようです。もしも全国で最も予防接種率の低い大分県で流



行したら、この程度の数ではすまないことが危惧されます。また、妊婦さんが風疹にかかってしまったら大変です。

先天性風疹症候群という、脳や心臓や視力や聴力に重い障がいを持った子供が産まれてしまうこともあり、現実には、大分県でも、この数年間に、数名の先天性風疹症候群の赤ちゃんが産まれています。

確かに予防接種も副反応がないわけではありません。しかし、その頻度は実際に感染したときの頻度よりはるかに低いものです。例えば、はしかにかかって脳炎になるのは1000人に1人ですが、はし

かワクチンで脳炎になるのは100〜150万人に1人以下です。

小学校入学前、中学生、高校生にもなると、予防接種への関心が親子ともに薄らいで、「うっかり」忘れてしまうことも多々あるとは思いますが、しかし、その親の「うっかり」で、子供の輝ける未来を、潰して良いものでしょうか？

他の予防接種も同じように大事ですが、ここ数年、他県ではしかが流行しています。該当年齢の方は、必ず、かかりつけの医療機関に予約して、MRワクチンを接種してください。

